

矢作川(仮)豊田大橋下流における生息魚類調査報告

The report about the fish under Toyota Ohashi over the Yahagi River

梅村 鎔 二

Junji UMEMURA

はじめに

この報告は、豊田大橋の橋脚設置工事に伴い河川の形状等が大きく変化して、魚相にも影響が予想されるので工事と並行して実施した調査結果である。なお、調査方法は重機を使って左岸側に池をつくり大型ポンプで排水し、かい堀り方式で実施した。

1 調査期日と調査員

第1回	平成7年2月13日(日)	晴れ	am 10:00~pm 4:00
第2回	平成7年2月14日(月)	晴れ	am 10:30~pm 5:00
第3回	平成7年2月25日(土)	晴れ	am 9:00~pm 1:00

調査協力者

- ・豊田市役所河川課職員——延べ12人
 - ・豊田市矢作川研究所関係者——延べ4人
 - ・豊田市自然愛護協会関係者——延べ6人
 - ・工事関係者——延べ7人
- 計 延べ29人

2 調査場所

豊田大橋下流約100mの左岸側に、ブルトーザにより河床の土砂を盛土して、20×5mの池を約3m間隔で10か所つくり、そのうち上流からNo. 2~No. 9の8か所の魚類の調査をした。No. 9の池だけは他の池の2倍の規模であった。総面積は890m²であり、何れの池も深さ1~1.5mであった。

3 調査方法

2/13はエンジンポンプ、3インチ2台、2/14と2/25は水中ポンプ、6インチ1台、4インチ1台を使い排水して、水量が少なくなったところで四ツ手網、たも網等の網類を使って捕獲調査した。特に2/14、2/25の両日は大型ポンプを使ったので、短時間のうちに排水が

進み、魚類調査もスムーズに実施することができた。かい堀り方式の調査方法であるので種類数、個体数ともに詳細に調査することができた。冬季の調査は調査員も寒いですが、水温が10°C前後と低いので魚類の活動も鈍くコイ、ニゴイ、ウグイ等の大型魚類でも容易に捕獲することができた。なお、調査後は特別な個体を除いて矢作川本流に放流した。

4 調査結果

No. 2～No. 9までの8か所の池内で確認できた種類と個体数をまとめると次のようになる。

		個体数
・スナヤツメ	<i>Lampetra reissneri</i> (Dybowski)	125尾
・ウナギ	<i>Anguilla japonica</i> Temminck et Schlegel	1
・ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i> (Gunther)	100
・アブラハヤ	<i>Moroco steindachneri</i> (Sauvage)	50
・カワムツ	<i>Zacco temminckii</i> (Temminck et Schlegel)	7
・オイカワ	<i>Zacco platypus</i> (Temminck et Schlegel)	13,230
・ハス	<i>Opsariichthys uncirostris</i> (Temminck et Schlegel)	1
・カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i> (Temminck et Schlegel)	106
・タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i> Temminck et Schlegel	43
・モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i> (Temminck et Schlegel)	5
・ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i> (Temminck et Schlegel)	8
・コイ	<i>Cyprinus carpio</i> (Linnaeus)	1
・ヘラブナ	<i>Carassius cuvieri</i> Temminck et Schlegel	5
・ギンブナ	<i>Carassius gibelio langsdorfi</i> (Valenciennes)	2
・イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i> (Jordan et Fowler)	3
・タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus</i> (Kner)	1
・ギギ	<i>Pelteobagrus fulvidraco</i> (Richardson)	75
・アカザ	<i>Liobagrus reini</i> Hilgendorf	10
・ナマズ	<i>Silurus asotus</i> Linnaeus	1
・オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i> (Lacepede)	3
・ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i> Rafinesque	2
・ヨシノボリ	<i>Rhinogobius brunneus</i> (Temminck et Schlegel)	8
・カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i> (Mizuno)	1,305
	種類数 23種	個体数 15,092尾

5 考察

調査地域は、矢作川の中流域のれき底の瀬の部分であるので、この生態にふさわしいオイ

カワ中心の魚相といえる。特に貴重な種類は生息しないが、個体数は豊富ということが出来る。オイカワの個体数は約 13,000 尾と圧倒的に多い。幼魚（全長 3~5 cm）が中心であるが、これらは前年に孵化した個体で今年の夏季には成長して成魚に達するものと思われる。成魚もいるが個体数は極めて少ない。

カワヨシノボリも約 1,300 尾と多いが、これも中流域の瀬の特徴である。幼魚が多いがオイカワ同様前年に孵化したものである。水温が低いのでカワヨシノボリは特に動作が鈍く、容易に捕獲できる。カマツカも約 100 尾と多いが、No. 2 と No. 5 の池が砂地になっているので多産したものと思われる。

国の天然記念物のネコギギが生息するか興味があったが、全部がギギでネコギギは姿を見せなかった。平戸橋から下流一体にギギが増加しているので、この付近では生態、食性等を同じくするネコギギの生息は難しいかもしれない。

捕獲されてもよさそうなコウライモロコ、ヒガイ、ゼゼラ、ヤリタナゴ、シマドジョウ、ドンコ等は見られなかった。矢作川本流は支流と比較して BOD はそれほど高くないが、8 つの池の個体数の計が 15,000 尾強に対して種類数 23 種は少ない。時期的なこともあるが水の量・質とも環境悪化の方向に進行していることがうかがえる。調査場所はれき、泥や早瀬、淵等の変化があり広範囲にわたるが時期が冬季であるので生息場所というより越冬場所の調査になる。今後は夏季の調査が必要とされる。

Summary

We carried out a research to grasp how the new bridge which is under the construction will influence the fish living in the Yahagi River.

The research is as follows : we stemmed the part of the left side of the river like a pool, using a big machine. We pumped out the water from the pond. We found that there were twenty-three kinds of fish and about 15000 fish in it. About 88% of the number of "OIKAWA", the number of them is drastically small. The result of the research says that the kinds of fish decreases and the balance of them loses, compared to before the beginning of the bridge-construction. We couldn't find out "NEKOGIGI" a rare species protected by law. And also we couldn't find out "KOURAIMOROKO" "HIGAI" "ZEZERA" "YARITANAGO" "NIPPONBARA-TANAGO" "SHIMADOJYOU" "DONKO" which we had seen in the middle of the river before.

It is certain that the bridge-construction has influenced badly the environment of the Yahagi River : the water and the floor of the river around the bridge has been getting worse and worse.